

## 季節は夏

太陽がまぶしい

日本中の人々が

この太陽に照らされているのだと思う。

外に出てぶらぶらすると

やけに緑の葉が多いのが目につく。

雲もだんだん夏の雲のような感じになってきている。

それにしても緑が多い。

見渡すかぎり、緑ばかりだ。

夏という季節は

すべての生物が自分の生命を燃し尽くす時だ。

緑の奥で、そのエネルギーが放射されている。

そのエネルギーは、何よりも強い力を生み出している。

その力に僕は

エネルギーにとまどい、混乱しながらも

自然の快感を感じる。

僕は何者なのか？

夏のそんな風景の中に人々は生きる。

それはあまりにも混沌としていて

逃げ出してしまいそうになる。

そんな僕が、ついつい見てしまうのは愛し合う二人だ。

男と女、男と男、女と女

二人の間で育まれる愛というものは

人生の中で一番素晴らしいもので、強いものでもある。

愛というものは、動物にそなわっている本能だと思う。

誰に教わることなく、人は愛し合う。

そして愛の絆は

時には自分のエゴや死の恐怖すらも忘れさせるくらい強いものになる。

愛とは、命がけのものだ。

愛は時には残酷なようなものに見えるが、それが真実なのだと思う。

それが調和へのカギかも知れない。

人生のすべてをかけても、損はしない物だろう・・・